

横浜市小学校社会科研究会

3 学年部会

**研修会記録**

第5号

令和 元年 10月 30日

横浜市小学校教育研究会

会長 榮 秀 之

横浜市小学校社会科研究会

会長 新 井 篤 志

同 学年部長 小 泉 斎

【提案日時】

10月 2日 (水)

提案 栗田 一輝 先生 (山下みどり台小)

【会 場】

横浜市立丸山台小学校

司会 ハッ橋 良規 先生 (瀬谷小)

記録 福地 啓人 先生 (洋光台第三小)

【授業実践提案】

山下みどり台小学校 栗田一輝先生の実践提案

単元名「Sさんの浜なしのひみつ」～たくさんの人に届け！美味しい浜なし～

【自評・視点1】

子どもの予想と見通しから創り上げる学習計画をもとにした単元づくり

- ・地元の農家に実際に話が聞けた
- ・なしを実際に見せてなぜあまいのかについて考えて学習問題を作っていた。
- ・緑区の資料を活用し、実際に児童が買いに行く中で追究していった。
- ・見学のふり返りで、台風でのえいきょうで大きな被害をこうむったことについて話してもらった。
- ・食べられそうだけど捨てる浜なしと売られているなしを比かくし、学習問題を作る予定だったが、台風の影響で厳しかった。

【自評・視点2】

本気の学習問題を追及し、社会的事象の意味にせまる授業づくり

- ・様々な視点で浜なしを見ながら考える場面が多くみられた。
- ・いたんでしまったがゆえに、なぜ捨てられるのか！？という意識の流れにせまられなかった。
- ・どのような発問が適切であったか。
- ・どのようなやり方が適切であったか。

【グループ討議】

協議1

- ・浜なしを通して生産について追求していくことができたのではないか。
- ・なしを手に入れる時期をもう少し移動できたらよかった。
- ・ブランドを守り、少しでも美味しいものを届けたい。
- ・捨てることはわかっているがみんなだったらどうするかと問いかけてみる。
- ・スーパーに出さない理由について追求する。
- ・台風で大きなひがいを受けたにもかかわらず作り続ける理由についてせまる。

協議2

- Sさんの言葉
- 浜なしのブランドを児童がどの程度理解しているのか。
- 学習問題に立ち返り進めていく。

【質問】

- 実物+ $\alpha$ が必要だが、なかなか見つけることが難しいので課題でもある。

【ご指導・ご助言】

- 社会事象を目の当たりにして不安になる時期の児童に多く価値付けをしている。
- フリーで書くことで多くの見方・考え方を教師が気づくことができる。
- 材と子どもの距離が近いことは大きな利点。
- キャリア教育についても考えながら進め方を考える必要がある。
- 現物を比かくする上でSさんの話につながらなかった。
- 現物だけでは、限界がある。そこから生産者の仕事の姿を見ていく。